

第5回 香川県産業成長戦略に関する懇談会議事録（要旨）

開催日時：平成25年5月22日（水）10:00～11:40

開催場所：県庁本館21階特別会議室

出席委員：竹崎会長、嘉門副会長、板倉委員、乾委員、岩田委員、梅原委員、大川委員、木原委員、獅山委員、中山委員、山本委員、（井原委員は所用のため欠席）

○「香川県産業成長戦略」の素案について、産業政策課長が資料①、②、③を説明した。

【委員発言要旨】

（会長）

- ・ 今回の案は、これまでのご意見、議会での審議、パブリックコメントを経て、とりまとめられたものである。
- ・ 最終案について、特に気になるところなど、意見はないか。

（委員）

- ・ 非常にバランスよく盛り込まれていて、まとまっているというのが率直な印象である。今後、自分がどのように貢献できるのかは分からないが、正直ハードルが高そうな課題もあると思う。
- ・ 今後、戦略の実施状況をモニターする中で、プロセスはしっかりできているが結果がついてこないということも当然起こり得ると思われるが、その際、どのような手をうてるのかということ、県を中心に議論するのが重要であると考えている。

（会長）

- ・ 今日説明のあった修正箇所も含めて、意見はないか。（意見なし）
- ・ 特に意見もないようなので、会議のプロセスも含めて、あるいは、今後の展開に対する意見、感想を伺いたい。

（委員）

- ・ 最終的に良い案がまとまったと感じている。
- ・ 香川県の強みを生かした健康食品の独自性を生かすような6次産業の取組みについては、まだ成長の可能性が強いのではないか。例えば、みかんは、ポリフェノールを含む抗酸化作用を備えた果樹なので、それを利用した健康食品はセルフメディケーションに役立つため、機能性を表示することによって、アジア向けの輸出産業に

繋がるのではないか。

- ・ 香川県は多品種少量生産なので、海外に展開する場合は、ジャパンブランドとして、ITを利用するなど統一生産管理を行うことによって、点在しているものであっても管理が可能になるのではないか。
- ・ また、安心安全の日本ブランドという観点から、血圧を抑える作用をもつGABAを多く含む米を生産し、健康機能食品として世界に輸出できれば、TPPにも明るい話題を提供できるとともに、化粧品やヘルスケア用品にも、同時に展開ができるのではないか。このことは、県内産業の活性化や香川県の地産地消につながり、海外展開が期待できる農産物になるのではないかと考えている。

(委員)

- ・ 全般的に、本戦略は、現状をうまく分析し、これからの本県の進むべき方向性と課題を分かりやすく具体的にとりまとめられていると思う。
- ・ 地に足がついた、地域の活性化を第一にした着実なものとなっている。例えば、弱みを強みに変え、地域の特徴と構造を生かした戦略、アジアへの展開を明確にした3つの戦略方針をたて、また、成長のエンジン、重点プロジェクトについては、将来の有望分野とともに、これまでの本県の伝統技術に根ざした産業であるとか、地域資源を活用した産業も提示しているので、地元の企業、関係者にとって、心強い戦略となったのではないかと考えている。
- ・ このように体系化することにより、関係機関、行政、企業のそれぞれの立ち位置が明確になるので、役割分担と連携の必要性が目に見える形で表され、今後の事業の推進に役立つのではないかと思う。
- ・ 今後は、推進体制を是非つくっていただき、より効率的な施策への落としこみを期待したい。

(委員)

- ・ 国の立場としては、安倍政権において成長戦略をまとめようとしているが、安倍首相の発言にもあるように、成長分野を育成していく、必要な規制改革をやっていくこととしており、国の成長戦略と県の産業成長戦略はベクトルが一致している。
- ・ 成長のエンジンとなる分野としては6分野、県の特徴を生かした重点プロジェクトには、希少糖プロジェクト、オリーブ産業、K-MIX、ものづくり、アートといった内容が明確に提示されている。この重点プロジェクトを踏まえ、県と連携して、国としてやるべきことはやっていき、地域の活性化を進めたいと考えている。
- ・ 国の成長戦略は、5年間を緊急構造改革期間として位置づけている。県の産業成長戦略の対象期間は10年間で、より長期的な視点に立ち、地域のために進んでいくということであり、期間は異なるが、スタートからベクトルが一致していると考え

ている。

- ・ 戦略の施策展開としては、具体化されているものや、これからというものがあるが、それぞれの進捗に応じた的確に連携を深めていくことが重要であると考えているので、コミュニケーションを密にして進めていきたい。

(委員)

- ・ このような戦略を取りまとめる際、華々しく見える分野論や重点プロジェクトに目がいきがちだが、横断的な戦略について、地道なところではあるが、きっちりと書き込まれたところが評価すべきところである。
- ・ また、第3回、第4回の懇談会において、成果目標について、激論が交わされたが、最終的に、目指すべき経済社会の達成度を評価する指標であるという位置づけがなされ、実施状況を随時確認するとともに、情勢の変化等に柔軟に対応して戦略の見直しを行うということが盛り込まれたことは素晴らしいことではないかと思う。

(委員)

- ・ 全体的に産官学連携を進めるための取組みが的確にとりまとめられている。
- ・ 47ページの横断的戦略3にあるが、人材育成こそ成長戦略である。社会人の人材育成、プロフェッショナルスクールという言葉があるが、専門職業人のための人材育成が必要である。例えば、香川県であれば、ニッチトップ企業に強みがある。中小企業が多いということで、オーナー社長が多いが、その後継者や経営者の人材育成が重要であると考えらる。
- ・ 重点プロジェクトはいずれも産官学連携で進めることが有効である。特に32ページの「オリーブ産業強化プロジェクト」についてであるが、オリーブはなんといっても県花県木である。香川県が日本のオリーブのトップを走り続けるために、今後、産官学連携で一体となって研究を進めたいと考えている。

(委員)

- ・ 総論としては、非常によくまとまっているし、末端まであらゆる分野についてよくできていると思う。この戦略ができて、これで終わったわけではなく、これからがスタートである。
- ・ 我々も戦略を練って、色々失敗しながら今日を迎えている。戦略方針のところには数値目標があるが、施策展開のところは文章で記載されていて最終到達点がみえない。文章で記載されていると、時が経つと忘れてしまって分からなくなり、目標が達成できないという苦い経験が何回もある。
- ・ 常にチェックをして、ブラッシュアップしながら実践することで、成果に繋がっていくのではないかと思う。今後、目標達成に向けて、きめ細かなチェックを熱意、

執念を持ってやっていただきたい。

- ・ 老舗観光地の復活ということですばらしいと思うし、中高年のお金を持っている方に使ってもらおうということであるが、私は屋島に行くときと鄙びた感じが強いと感じる。確かに、屋島には、海とか島、瀬戸内海の眺め、夕焼けは素晴らしいものがある。観光の場合はリピート客や口コミが重要であるが、行った方がこの鄙びた感じの屋島を見たときに、そのようなことが屋島の場合に可能であるかという疑問を持っている。

(委員)

- ・ 最初の会議で、雇用の創出、維持、生産性の向上、そのための県としての産業育成支援が重要ではないかという考えを申し上げたが、今回の仕組みづくりにおいて香川県独自の産業育成支援を進めていくという方針が打ち出された。また、アジア市場が現在広がっているので、グローバルにアジアワイドで企業支援をしていくということが重要ではないかということも申し上げたが、この点についても戦略の中に盛り込まれ、感謝申し上げる。
- ・ そのアジアを中心とした海外市場に関する今後の取組みということで、県内企業のアジアを中心とした海外取引の状況を紹介したい。資料編93ページの上の図に、国別貿易取引の件数、下の図に、進出・提携の件数が記載されているが、国別の貿易取引件数で見ると、中国が153件と圧倒的に多く、24%を占める。東アジア（中国・韓国・台湾・香港）では4割となる。東南アジア、ASEAN10カ国を含めると6割となっている。
- ・ また、進出・提携でも、上海を中心とした中国が多いが、最近では、繊維、手袋産業以外に機械、電気・電子分野で東南アジアの国々への進出が増えている。東アジアに次いで、タイ、ベトナム、インドネシアが多くなっている。提携においても、生産委託の手袋産業、繊維産業等があるが、中国の次にインドネシア、ベトナム、タイ、フィリピンなどの国々が多くなっている。中国に進出、あるいは提携している企業が香川県には多いが、こうした他のアジアの地域にも携わっている企業が増えてきている。
- ・ この方針にも示されたが、上海地域におけるビジネス支援体制の強化ということで、最近チャイナリスクというのが叫ばれているが、実際に中国に進出・提携している県内企業に、こうした環境の中でもしっかり支援をしていくということがまず重要ではないか。
- ・ また、今後の日中間、ASEAN10カ国の中においても、ASEANでは、例えば、2015年までに一大自由貿易圏を形成するとか、日中間、ASEAN、インドなどを含めたアジアの包括的な経済連携が進んでくるということで、アジアにおいてモノの行き来が自由になってくることを考えると、企業の動きは早いので、こう

した動きをしっかりとサポートしていくことが重要だと思うので、こういった方針が策定されるのはすばらしいことだと思う。

(委員)

- ・ 皆さんと同じ意見であるが、非常によくまとまって、分かりやすいと思う。基本の戦略、分野別の戦略があり、ややもすると先送り、敬遠しがちな、地味な横断的戦略についてもきっちりと整理されていて、分かりやすいと思う。
- ・ 特に観光において、施策展開のところでアート文化、瀬戸内海の活用、老舗観光地の活性化を三本柱として位置づけていただいた。これらは香川独特のものである。この中でもアート文化は言うまでもないが、瀬戸内海は全世界的に有名になりつつあり、いくらでもPRできる。
- ・ 老舗観光地の活性化であるが、これから日本を活性化していく大きな世代は60歳以上のシニア世代であり、この世代に観光してもらう動機付けは、老舗観光地、さらには「懐かしの修学旅行」だと考えている。これが日本を活性化する決め手になるし、いわば平成のディスカバージャパンを展開していく、そのきっかけを香川県から発信できればと思う。
- ・ 老舗観光地といえば、築港、屋島、栗林公園、こんぴらさんを中心として、先ほど話があった屋島もセットで売り込んでいくということで、今年は関西、来年は東京に売り出していく。
- ・ 確かに屋島はさびれている。屋島は、今回は芸術祭の作品が一つあるが、次回は、屋島が芸術祭の正式な地区になると期待している。あわせて、次の芸術祭までに屋島の一番景色のいいところに市がビジターセンターをつくることが決定している。その具体的な委員会も近々始まる。また、日本書紀に記述されている古代の城、屋嶋城の跡が発見され、いま再構築されてほぼ完成し近日のうちに公開される。そういったことを組み合わせれば、屋島は魅力あるものとなるに違いない。あとは、いかにやる気になるかということが大事である。
- ・ もう一つが、オリーブである。これからオリーブは、美容・健康で大ブームになると思う。もとより香川の小豆島を中心としたオリーブは、スペインの何千万分の一で規模は小さいが、品質は世界一であることは間違いない。いま日本中でライバルが台頭している。
- ・ 小豆島がオリーブで有名になったのは、土壌と気候にあると考えている。しかしそれは条件の一つであり、実際、その程度の気候は全国にいくらでもある。やはりあそこで命をかけた人がいたということが大きい。やる気になれば日本中どこでもできる。現実問題としては、オリーブが今頭打ちになっている。栽培農家の問題、販路の問題、行政の指導・助成・規制の三つの問題があり、伸び悩んでいる。
- ・ いま小豆島にブランドがあるのだから、オール香川のブランドでやっていってほし

い。行政内で一度プロジェクトチームをつくって、実際に何が必要か勉強していく必要がある。そうでなければ掛け声はかかるけれど、なかなか進まないということになる。オリーブは、うどんと同等ないしは、はるかに大きな効果が期待できる。

- ・ 最後に、57ページの終わりのところにあるように、随時確認、見直しをすることが大事である。

(委員)

- ・ こういった計画は、本編と資料が別々になっていることが多いが、この戦略は、この二つが一緒になっていることが極めて重要だと思う。
- ・ その資料編の中で、香川県の情報インフラのデータがあるが、超高速ブロードバンドの整備が早い時期に100%になることを期待したい。また、人材育成、産業社会基盤の強化が戦略に盛り込まれたことに喜んでいる。
- ・ 瀬戸内国際芸術祭の春シーズンが終わってから、二組のお客さんを迎えた。一組目は、フランス、イギリス、アメリカからで、もう一組は東京、大阪、徳島から。二組とも芸術祭のことは良く知っていた。特に瀬戸内の美しさは世界に冠たるものだから、香川県として打ち出していけばよい。
- ・ しかし二組とも、希少糖は全く知らなかった。日本人のグループの感想だが、将来性はあるが、ネーミングが今ひとつであることが印象としてあった。希少糖は、香川県発の新技术であるから、誰もが分かりやすいキャッチコピーを考えればよいと思う。
- ・ 観光はリピーターを取り込むことが大事だ。リピーターを増やすには、歴史・文化を掘り下げることが必要である。東南アジアだけでなく中東も含めてお金持ちのグループが特殊な文化を持った日本に、一泊10万円など極めて高額のコストをかけて観光で来ている。そこまではする必要はないが、香川県の歴史、文化の深みを掘り下げようなものも今後検討していただき、成長戦略の成果目標にはなりにくい、県の豊かさをどう表現していくか、豊かさの指標についても検討してほしい。
- ・ そういった点において、成長戦略に各場所で積極的に取り組むことが大事であるから、県が先頭を切って産業が振興していくことを期待している。

(県)

- ・ 富裕層の話は、39ページの一番下に記載させていただいているが、富裕層をターゲットにした、金に糸目をつけない旅行、いわゆるラグジュアリートリップには私も注目しており、実際取り扱っているエージェントにも来県してもらい、私自身も栗林公園で説明をしたところであり、アートの香川のプロジェクトの中で取り組んでいきたいと考えている。
- ・ また、リピーターを育てていくことも重要であり、特に栗林公園などのリピーター

を育てていきたいと考えている。

- ・ 「希少糖と言えば香川、香川と言えば希少糖」ということで、研究開発以外にブランド確立の一環として、戦略では、希少糖フェアについても記載しており、いろいろなイベントを通じて知名度アップを図りたいと考えている。
- ・ また、希少糖には、「さぬき新糖」というネーミングもあり、私は夢の糖という言い方もしているが、アートの瀬戸内国際芸術祭と比べて知名度が低いので、希少糖というものがどういうものなのかも含めて広めていくことが重点プロジェクトの一つと考えている。ネーミングについては、情報発信の点で、委員御指摘の点に注意しながらやっていきたいと考えている。

(委員)

- ・ 海外の方から希少糖の話聞いた。健康志向で、食文化と合わせて取り組むということで、フランスからも希少糖の問合せがあったほどなので、私はむしろ希少糖という名前で売り出した方がよいと思う。
- ・ 横断的にやるという観点は非常に重要である。他の地域でも、例えば、「食と健康」や「食と観光」といった2つの組み合わせはよくあるが、3つの組み合わせはあまりない。食と健康を支えるものづくり、また、例えば、高松市丸亀町のようなまちづくりの中での健康づくりと食、それを観光にもつなげるといった組み合わせを通じた横断的連携戦略を行うのが重要ではないかと考えている。
- ・ いずれにしても、57ページの終わりに書かれているように随時確認しながら戦略を展開していくことが重要ではないか。

(委員)

- ・ 四国88箇所を全部回って感じたのは、店主が愛想を振りまいてアプローチをかけてくるところと、店主は座ったままで「買うなら買え」といった態度の店があり、熱心な店では買ってしまふ。これは商店街でもいえることである。
- ・ 香川県はバランスのとれた産業構造であるため不況に強いと言われている一方で、気候が温暖な地域で、企業も危機感が欠落し、のんびりしているところがある。
- ・ 観光も含めてソフト面が非常に重要であり、特に現場に携わっている人がいかに危機感を持ってお客さんにサービスをしていけるかということが重要である。香川県全般に言えるが、危機感がないのかなと思う。そういうところにも注意しないと、いくらハードを整えても戦略の目標は達成できない。人材育成といった目に見えないソフト面を強化していかなければいけないと感じている。

(会長)

- ・ 他に意見はないか。(意見なし)

(県)

- ・ 本日いただいた意見も踏まえて、最終案については、香川県行政に係る基本計画の議決等に関する条例に基づいて、6月に開催される県議会定例会に議案として提案し、ご審議いただくことになる。議決をいただいで、香川県産業成長戦略は成案となる。